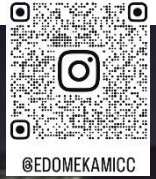


住所 坂井市春江町江留上大和4-8 TEL・FAX 51-0829
E-mail edomekami-cc@city.fukui-sakai.lg.jp

発行：江留上まちづくり協議会 総務広報部



@EDOMEKAMICC



11月24日(日)にイルミネーション点灯式を開催しました。

子ども広場ではたくさんのお子どもたちが遊びに来てくれて、スマートボール、ダーツ、わなげ、叶い結びをして楽しみました。また、ミニコンサートでは、春江中学校合唱部のクリスマスソングや、sakai city' s によるバンド演奏があり、点灯式ではたくさんの方とカウントダウン後点灯。今年もきらびやかなイルミネーションで、「すごい！キレイ！」などの声があがり大いに盛り上がりました。

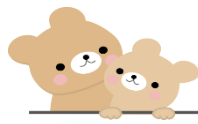
イルミネーション点灯期間は、11/24(日)～12/28(土)の17時～21時半まで点灯。



春江中学校合唱部



Sakai city' s



まちづくり協議会活動



秋のスイーツ作り

10/5 (土) に子ども対象に秋のスイーツ作りを行いました。ハロウィン仕様のスイートポテトケーキとキャラメルポップコーンを作り、子どもたちはポンポン跳ねるポップコーンにくぎ付けでした♪



防災研修

10/13 (日) に区長ら 17 名が防災研修を行いました。福井市防災センターへ行き、地震体験などを通じ防災の必要性を再認識しました。

越前カンタケ

11/15 (金) に毎年恒例の越前カンタケ菌床植込みを行いました。これからの時期、鍋や炊き込みご飯などにして食べるのが楽しみです。

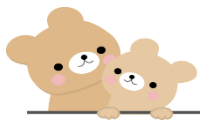


壁新聞コンクール

夏休み期間中に緑区の児童 4 名が壁新聞作りにチャレンジしました。坂井市では佳作に、福井県では努力賞に輝きました☆



おめでとう
ございます♪



コミセン講座



パン作り

9/7 (土) にパン作りを開催しました。手ごねで簡単カンパーニュを作りました。たくさんのナッツやレーズンを入れて発酵。天気も良く発酵がどんどん進みとても大きなパンになりました。ボリュームのあるパンにみんなびっくり！試食もあり大満足なパン作りになりました。



葉っぱ寿司

10/11 (金) に葉っぱ寿司作りを開催しました。永平寺伝承料理で油桐の葉を使った葉っぱ寿司でサクラマスを使い巻いていきます。葉っぱを巻いていくところで少しコツがいりますが、皆さん難なくクリア！とても美味しい葉っぱ寿司ができあがりしました。この講座は大変人気があり、10/31 に第 2 弾を行いました。



知って UkiUki ハーブで健康

10月の「ハーブで健康」ではハーブを使ったチキン料理を作りました。鶏肉にハーブを染み込ませ焼きました。口の中にハーブのいい香りが広がりとても美味しかったです。



ガーデニングを極めろ！ 花のプロに学ぶ

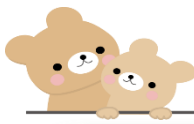
3 回目の「ガーデニングを極めろ」は寄せ植えをしました。水やり方法や枯れた花の取り方、植え替えの方法など、目からうろこの話をしてくださり皆さん真剣に聞き入っていました。また、自宅から花鉢を持ってきて管理方法など質問されていました。



普段使いのカゴバック

10/23 から 4 回シリーズでカゴバック講座を開催しました。クラフトバンドで編み上げていき、バックが出来上がってきました。悪戦苦闘しながらも皆さん集中して楽しく作り上げていました。残りはおあと 1 回！完成が楽しみですね☆





放課後子ども教室



しょうぎ教室

毎月、楽しくしょうぎ教室を開催しています。全 20 回中 14 回が終わりました。子どもたちは集中してしょうぎを楽しんでいます。ここから第2の藤井棋士が誕生するかもしれませんね☆



アドベントカレンダー

11/18 (月) にアドベントカレンダーを作りました。25 枚の袋の中にお菓子を一つずつ入れ、カレンダーを作っていました。サンタさんへの手紙も書き、クリスマス仕様にかわいくデコレーションをしました。クリスマスまでの1か月間、心待ちにしながら毎日袋を開けていくのが楽しみですね☆



春江町子ども会育成協議会



音楽のつどい

9/28 (土) に春江中コミュニティセンターで音楽のつどいを開催しました。今年は春江中学校吹奏楽部の生演奏を聞きました。3年生が引退して1.2年生だけの演奏会。初めてとは思えないほどとても上手で参加者からは大きな拍手があがっていました。



春江町親善ディスクドッチ大会

11/17 (日) に春江西小学校体育館にて春江町親善ディスクドッチ大会が行われました。春江小学校から低学年チームが1チーム参加しました。毎週火・木に江留上コミセンで練習をしていた成果が発揮出来ました☆みんなよく頑張りました！



その他



令和6年度社会福祉事業功労者等知事表彰式にて、江留上まちづくり協議会わくわくいきいき倶楽部が受賞しました。



また、わくわくいきいき倶楽部が主催するいきいきサロン交流会活動が600回を達成しました！



お知らせ



○1月コミセン講座○
スマホ教室

日時：1/7 (火) 13:30~15:40

参加費：無料 定員：20人

お申込みは江留上コミセンまでご連絡下さい。

○年末年始のお知らせ○

12/29 (日) ~ 1/3 (金) は年末年始休館日です。
※夜間、コミセン駐車場に車を停めている方がいます。
除雪作業の妨げになりますので勝手に駐車しないようお願いいたします。

かみむら物語

コラム6. 「江留上八幡神社」

年越しに多数の方がお参りする江留上八幡神社のお話です。約1200年前、江留上に人が住み始め、祠（ほこら）を立てたのがはじまりと考えられますが、創立年月はわかっていません。一般的に集落の中心に神社を立て、外れに墓地（現在の旭公園）を置くことを考えると、創立当時、江留上は小さな集落であったことが推定できます。その後何回か神社の立て替えの後、平成23年に現在の立派な社殿に改築されました。

本社は、譽田別尊（ほんたわけのみこと、応神天皇と同一人物とされています）をお祀りしています。第15代応神天皇は4世紀後半から5世紀初頭の天皇と推定されており、日本尊武（やまとたけるのみこと）の孫にあたります。応神天皇の子である仁徳天皇の直系は第25代武烈天皇に男子が生まれなかったことから途絶えたものの、来尊（らいそん）つまり応神天皇の孫の孫の子にあたる継体天皇に引き継がれ、現在の皇族に繋がる皇統になっています。応神天皇の崩御の後、八幡神（やはたのかみ/はちまんしん）と祀られることとなります。奈良時代から平安時代、神仏習合（しんぶつしゅうごう）と呼ばれる仏教と神道の融合が行われました。仏教風に八幡大菩薩（仏教に守られた八幡神）とお参りされるようになります。武運の神、武家の守り神、これが転じて厄除けや出世開運の神として全国に広まっていきました。神社本庁傘下の約8万社のうち、八幡信仰にかかわる神社は約8000との事です。

さて、神社の祭壇に置かれた鏡（神鏡）は太陽を模したものであり、お祓いの太鼓や神官の持っている大麻（おおぬさ）についている紙垂（しで）は雷を模したものです。大麻は、もともと麻の繊維や布を束ねたもので人の穢れ（けがれ）を拭うという意味がありましたが、時代と共に雷の形の紙（紙垂）に変化しました。また、正月の風習である鏡餅は太陽と月であり、鏡餅やしめ縄にも紙垂が付けられています。このように神社や昔からのしきたりの中には、自然の力（神の力）授かり、神官の言葉の力（言霊 ことだま）で人々にしあわせをもたらすそうとする願いが込められているのです。そう考えると、紙垂には雷の力で邪気を払うという解釈が出来そうですが、それだけでしょうか？

ところで、「雷が鳴ると豊作」と言われます。『雷』や『稲妻』という文字をよく見てください。どうやら雷と稲作は関係がありそうです。日本海地方は夏の強い日射により発生する積乱雲による雷や、冬の強い季節風による雷が多く発生します。特に後者は『雪起こしの雷』と呼ばれ、雷の頻度やエネルギーは世界的に見ても特異でもあります。福井空港ではJAXA（宇宙航空研究開発機構）と共同で、航空機被雷の危険性を減少させる研究を行っています。雷はとても危険なものですが、生物の成長に必要なものだということが分かっています。植物の成長に必要な3大栄養素は、窒素、リン酸、カリウムです。窒素は光合成に必要な葉緑素や、アミノ酸・たんぱく質・核酸の構成元素であるために特に重要です。窒素は空気中の78%を占めるありふれた元素ですが、動物や植物は空気中の窒素分子を体内に取り入れ利用することが出来ません。植物は地中の硝酸イオンやアンモニウムイオンといった水に溶けた形で根から吸収し、体内でアミノ酸など必要な物質に変化させているのです。これらは、他の生物との食物連鎖によってできたものによるものです。

雷は強力な放電により、空気中の窒素分子が酸素分子と結びつき硝酸などを合成し、この窒素肥料を含んだ雨を降らせます。近年は化学肥料と言われる人工合成された尿素や硫酸などの窒素肥料を利用しますが、膨大なエネルギーを投入し、工業的に超高温・高圧の環境をつくり、窒素の化合物を人工的に合成可能になったことから製造が可能になりました。これにより食料増産が容易になり人口爆発による食料不足を解消できたといえるでしょう。しかしながら、全世界で工業に利用するエネルギーの1割は窒素化合物の合成に使われているのです。動物や植物は、硝酸などを合成できませんが、地球に最初に発生した生物であるシアノバクテリアやマメ科植物と共生する根粒菌などの微生物が合成できることが知られています。

私は、人類が多大なエネルギーを投入して実現できる仕組みが自然の中に備わっていて、植物の生長を助けていることを知ると、自然に対して感謝と畏敬の念が生まれてくるのです。